各社が誇る、現場で活躍する社員

設計業務で社会貢献に寄与

明電舎
水インフラ技術本部 技術部
ソリューション技術部 技術第一課
加藤 佑基さん

■インフラの壮大さに惹かれて

大学では理工学部で機械分野を勉強していました。就職活動で進路に迷っていたところ、研究室で明電舎の貼り紙を見たことが会社を知ったきっかけです。インフラという身近な存在であり、スケールの大きさと高い社会貢献性に魅力を感じました。大学の先輩も何名か入社しており、安心感があったことも入社を希望した理由の一つです。

入社後は1年間の研修やOJT制度があり、機械専攻で電気のことが一切分からない中でも、一緒に学びながら業務を進めていくことができました。先輩にも話しかけやすい雰囲気があり、明電舎の環境と教育体制は非常に整っていると感じています。

■伝わりやすさを重視して

明電舎は、電気・水・産業など社会インフラを支える重電メーカーで、上下水道分野では、水処理プラントの設計・製造・施工のほか、運転・維持管理に携わっています。

現在は、主に①上下水道設備の更新提案②納入する電気設備の費用算出③納入する製品の運転方案の検討――の三つの業務を担当しています。

更新提案業務では、お客さまが思い描いている動かし方や予算も考慮しつつ、最適に更新できるよう複数のパターンを提示して提案を進めていきます。技術部は設計だけではなく、営業部との見積もり相談、工場への指示、現場の施工担当者との調整機会なども多く、いろいろな役割の方と幅広くコミュニケーションをとる必要があります。製作段階で手戻りが少なくなるよう、簡潔で見やすい資料作りや、打ち合わせの際には相手の立場を考えた伝わりやすい言葉選びや言い回しができるよう心がけています。

最初に私がメインで担当を持ったのは、上水道施設の受変電更新業務です。水道施設の電源を最初に受け取る箇所であり、何かあれば断水に陥るリスクがある非常に責任が大きい仕事でした。2～3年間を要した工事が無事完成に至った時は大きな安堵感を感じるとともに、後からじわじわと達成感が湧いてきたものでした。自分のつくったものが実際に社会に貢献していて、その様子が目に見える形で残るところにやりがいを感じています。仕事以外のタイミングで自分が携わった物件を見た時にも、社会の一部になっていると感じ、「やってよかった」と充実感が得られました。

■社会貢献できる技術者へ（学生さんへのメッセージ）

今後は上下水道分野だけではなく、最新技術や社会課題など他分野の動向にもアンテナを張り、安心で豊かな生活へ還元することを目標とした事業提案ができる技術者になりたいです。

目標達成においては、社内環境やライフサイクルの充実が重要であると考えており、現在の職場においてその点は十分に整っていると感じています。有休や年休についても、業務と折り合いをつけながら基本的には希望する日で取れるので、非常にありがたいです。

就職活動では、企業がたくさんある中で悩むこともあるかと思いますが、少しでもいいなと思えることに出会ったら、その小さな感情を大切にしてみてください。それをきっかけにしていろいろな企業に出会えると思います。

「わかりやすい」の声励みに

日本水工設計
東京支社 水道部 設計二課
成田 千夏さん

■コンサルティングで快適な暮らしに貢献

日本水工設計は、上下水道施設に関する調査・計画・設計・運営支援を担い、地球環境の保全と快適で安全な街づくりに貢献している水分野の総合コンサルタントです。

私は、水泳やシンクロナイズドスイミングを習っていたこともあって、学生の頃から水に関心がありました。大学では油汚染水の浄化を研究しており、水処理に関する仕事に携わりたいと思いながら就活を進めていたところ、縁あって当社に入社し、今年で4年目になります。

■地域にとっての最適を追究

私は入社以来、水道部の設計二課に所属しています。設計二課では、水道施設や管路を具体的にどのように整備するかを検討する「詳細設計」を主に担当しています。一方で、設計一課が担う、街全体の水道インフラ整備の方向性を検討する「計画」業務にも携わる機会があり、設計と計画の両面から経験を積ませてもらっています。コンサルタントとして、どんな相談にも応えられるよう、幅広い知識を身につけることが今の目標です。

これまでの仕事では、住民の方々が自ら水道施設を管理している小規模な自治体での支援業務が特に印象深いですね。施設・管路の情報が手書き地図1枚しか無い中、地元の方と一緒に現地調査を行いながら最適な給水方法を提案することができたことは、とても貴重な経験でした。

現在は、主にDB（設計・施工一括発注）方式で整備する管路の詳細設計に取り組んでいます。共にJV（共同企業体）を構成する施工企業の意見も設計に取り入れるなど、事業全体がより円滑に進むよう意識しています。

■関係者間の密な連携が鍵

水道施設・管路の整備には、発注者である水道事業体（自治体の水道局等）やメーカーをはじめとするさまざまな業種の方が携わっているため、関係者全体で意思疎通が取れるよう、日々の業務では丁寧かつ密な連絡を心がけています。打ち合わせをした際に説明や資料が「わかりやすい」と言ってもらえた時はすごくうれしいですね。

複数のプロジェクトを同時並行で進めていくこともコンサルタント業務の特徴であり、やりがいにもつながっています。進捗が滞らないよう、自分が主体となって動く必要がある業務を毎日確認することを習慣にしています。

■自分に合った職場を見つけて

就職活動では、さまざまな企業のインターンシップに参加しながら、自分に合った職場を探してみることをお勧めします。私自身、インターンシップで出会った社員の方々が気さくで「何でも相談できそうだ」と感じたことが入社の決め手になりました。

水分野の仕事に興味があるようでしたら、ぜひ当社にエントリーしてみてください。新しく綺麗な自慢のオフィスで皆さんをお待ちしています。

水を仕事にする魅力、やりがい

相手の視点を見据えた設計

中日本建設コンサルタント
水環境技術本部 第1部
第1課 課長補佐
川井 望さん

■生活基盤を守る仕事

中日本建設コンサルタントは、上下水道や河川などの水環境分野、道路や都市計画などの交通分野を中心に、総合的なマネジメント力を生かして国土の未来をデザインする建設コンサルタントです。技術力と地域密着のサービスを強みとして、人・社会・自然がいきいきと共存できる持続可能なインフラ構築を目指しています。

就職活動では、大学で学んだ上質・水理・構造などの知識を活用しながら、大地震や水害に耐える構造物で人々の生活基盤を守ることができる建設コンサルタントに魅力を感じて当社に入社しました。大学院時代に地盤研究室に所属し、そこで研究に没頭した経験が原点となり、入社後の複数の技術士資格（上下水道部門、建設部門）の取得や現在の管理技術者としてのキャリアにつながっています。

■相手の視点を踏まえた設計を

現在は、水環境技術本部の課長補佐としてポンプ場や配水池更新の基本設計業務の管理技術者や、浄水場施設耐震診断・補強設計（高度解析）などを担当しています。近年では、浄水場更新事業のアドバイザリーコンサル業務にも参画しており、従来の専門設計業務にとどまらず、PFI事業をはじめとする多様な発注形態のプロジェクトにも対応領域を広げています。

管理業務においては、発注者に限らず多くの利害関係者と確実な合意形成を取ることが求められます。最近では、AIなどの最新ツールを活用しながら資料作成や情報整理のスピードを向上させ、業務の効率化を追求しています。

設計業務では、設計段階に移る前に施設の維持管理者と十分な調整を行う必要があります。過去には調整が不十分だったため、施工段階になってリスクに直面したこともありました。「机上の正解」が「運用の正解」とは限りません。この失敗を社内で率直に共有し、チェックリストに反映することで再発防止に努めました。この経験以降、設計の初期段階から維持管理者の視点を取り込むことを仕事の流儀としています。

■日常を支える技術者として

インフラプロジェクトは決して一人では成し遂げられません。多くの関係者と粘り強くコミュニケーションを取り、知恵を出し合って目の前の課題を解決していくプロセスには技術者としての醍醐味が詰まっています。

当社は若手からベテランまでフラットに意見を交わせる風通しの良い会社です。さらに社内には資格取得をバックアップする文化が根付いている上、オンオフのメリハリをつけた働き方が可能です。

上下水道はこの先も必要とされ続ける、人々の命と日常を支えるかけがえのないものです。社会生活の安全・安心を支え、守る誇りを一緒に分かち合いませんか。皆さまの挑戦を心よりお待ちしています。

テイシー
経営理念　社会・環境に貢献し、働きがいのある魅力あふれる企業を持続する
Tec Group
株式会社 東京設計事務所
千代田区霞が関3-7-1
代表取締役名誉会長 亀田 宏
代表取締役会長 狩谷 薫
代表取締役社長 古屋敷 直文